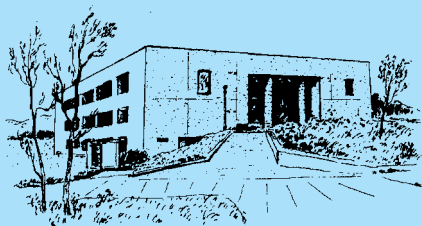


福島大学附属図書館報

No.32

書 燈



2004. 04. 01 発行

〒960-1293 福島市金谷川1番地

TEL (024) 548-8083

http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/

福島大学附属図書館

書物と「格闘」しよう

館長 北村 寧

大学教員なら誰しも、学生の書いたレポートや試験答案を読んでいて、予想もできないような「誤字」に出くわし、あきれたり、思わず吹き出してしまった経験があるにちがいない。最近も、「矛盾」と書くべきところを「無純」と書いた答案に出くわした。当人は「矛盾」という言葉の意味を知ってはいるのだろうが、文字として明確に記憶できていないのである。どうしてこのような「誤記」が生じるのであろうか？やはり、日頃から、きちんとした日本語で書かれた文章を読んだり、自分の考えを筋道立てて述べる文章を書いたりする機会が少ないからだろう。つまり、「読み書き」が足りないのだ。

現代は映像文化全盛の時代である。情報機器の発達に伴い、多種多様な映像メディア・映像文化が巷に氾濫している。映像メディアは私たちの感性を豊かにし、多くの知識・情報をもたらしてくれる。映像メディアは現代人の生活に必要不可欠といえる。

しかし、映像メディアの提供する情報に対して、私たちはどうしても「受動的」になる。機器を操作すれば、映像はこちらに飛び込んでくるのだから。

人間の本質的特徴の一つは、自由な意思に基づいて、なにか（物的であれ精神的であれ）を主体的・能動的に「生み出す」（創造する、産出する）ことであろう。自分の頭でモノを考える、論理的に思考する、自分の考えを首尾一貫した文章で表現する、といったことはすべて主体的・創造的活動である。こうした、すぐれて人間的な能力を培うには、やはり書物と格闘するのが一番だと思う。

私はしばしば学生に次のような「レポート」を課す。それは、7～8冊ぐらいの文献を指定し、どれ



目 次

- ・ 巻頭言 書物と「格闘」しよう……北村 寧(1)
- ・ 思い出の一冊
『プライベート・ゲイ・ライフーポスト恋愛論ー』
……………中里見 博(2)
- ・ 留学生から見たオーストラリアの図書館事情！
……………前柳 拓之(3)
- ・ 福島大学附属図書館自己評価報告書
ー附属図書館の現状分析と評価ー…芳賀 盛行(4)
- ・ 購入資料紹介 『シュモラー年報』森 良次(5)
- ・ 図書館が苦手だった私ーカウンターの内側からー
……………浄沼智佳子(5)
- ・ 学内教官著作寄贈図書を紹介
『学びのメカニズム』……………庄司他人男(6)
- 『棉積み』……………池沢 実芳(6)
- 『協同組合運動のエトス』……………守友 裕一(6)
- ・ その昔 福島大学の近くにあった図書館（その3）
「青雲文庫岩代図書館」……渡辺 武房(7)
- ・ 大学図書館職員講習会報告……………門間 泰子(7)
- ・ 図書館からのお知らせ……………(8)
「アンケートに出された意見・要望への回答」
……………について
「推薦図書コーナー」の設置について

か1冊について、その内容を要約し、著者の見解について3～4つぐらいの論点を取り出し、自分の意見を述べよ、というものである。「読み書き能力」を高めるためのレポートなのだが、この課題に本気で取り組もうとすれば執筆は容易ではないはずだ。何よりも自分の意見を持たねばならない。だが、自分の意見を持ったとしても、それを相手にぶつければ、それでいいというものでもない。ヘーゲルは「相手の見解を全面否定し、それと異なる自分の見解を対置するだけでは、相手を批判したことにはならない。なぜなら、批判者と全く同一の論法が批判された側でも成り立つからだ。批判というのは相手の前提をひとまず受け入れたとしてもなお、相手の論理に矛盾があることを明らかにするものだ」という趣旨のことを言っている。真の意味で議論を発展させ深め

るような批判をするためには、著者と格闘し、自らの理解力・思考力・表現力を高める努力を不断に続けるほかあるまい。

1998年10月、大学審議会は答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」において、大学改革の基本理念の第1番目に「課題探求能力の育成」を掲げた。「課題探求能力」を私流に言い換えると、「自らテーマを設定し、それについて調べ、問題点や解決の方策を明らかにし、自分の考えを論理的・説得的に表現する能力」である。こうした能力は、書物との格闘を通じた「読み書き能力」が基盤になっているのだと思う。前途必ずしも楽観を許さない21世紀を長く生きる学生たちには、こうした能力をしっかりと身につけてほしいと願っている。

思い出の一冊

『プライベート・ゲイ・ライフ ポスト恋愛論 -』 伏見憲明著 学陽書房 1991年
中里見 博

この本を読んだとき大学院生だった私は、自分が背負った深い「男＜制＞」（男性に期待される社会・文化的役割、思考・行動型：伏見氏の造語）に気づかされました。読後、身も心も軽くなった解放感を、今も鮮やかに覚えています。

「女の幸福教えます 男の降り方教えます ゲイの切なさ語ります エロスの構造論じます」——こう帯に文字が躍るこの本は、伏見憲明氏28歳の時のデビュー作、90年代ジェンダー・スタディーズ（なんて言葉は当時ありませんでしたが）のセクシュアリティ論の隆盛の幕を開けました。

私がこの本を手にとったきっかけは、当時飛ぶ鳥も落とす勢いでフェミニズム理論を開拓していた上野千鶴子氏のセクシュアリティ論を、この本が鋭く批判しているという書評を読んだことでした。かなり不純な動機ですが、当時上野フリークだった私には読まないわけにはいきませんでした。

ヘテロセクシュアル（異性愛）の男性なら、だれもが持っているホモフォビア（同性愛嫌悪＝恐怖）、それはどこからくるのでしょうか。伏見氏は、

それは客体化志向の＜女制＞に優位することで立ち上がる、主体化志向・パワー志向の＜男制＞（今の言葉では男性＜ジェンダー＞）に起因する、と言います。ヘテロ男性がゲイ男性を恐怖するのは、自分に否定し、それに優位することで自己の＜男制＞性の安定を保っているところの＜女制＞性を、ゲイの男性に見出すからだ、と。ヘテロの男性が感じるホモフォビアの正体は、自分の中の＜女制＞性への恐怖だと、この本は教えてくれました。

なーんだ、そういうことか。ヘテロの男性が自分の中の＜女制＞性を受け入れれば、言いかえると、女性差別から自由になれば、同性愛恐怖からも解放されます。そしてそれは随分と肩の荷を降ろしてくれそうです。

でも、＜男制＞性から＜女制＞性へ振り子のように振れるだけでは、既存の＜制＞度（ヘテロ・システム）の中での組み換えにすぎません。性の解放ではなく、新しい＜制＞の創造を呼びかける伏見氏の斬新さは、今読み返しても廃れていないな、と感じます。（行政社会学部助教授）



留学生から見た

オーストラリアの図書館事情！

前柳 拓之（行政社会学部4年）

私は、2003年に約1年間、交換留学制度でオーストラリアのクィーンズランド大学に留学させていただきました。皆さん、オーストラリアをご存知でしょうか？あのカンガルーやコアラのいるオーストラリアです。オーストラリアで有名な都市といいますと、シドニー、メルボルンなどなどですね。私が留学をさせていただいたクィーンズランド大学というのは、シドニー、メルボルンより北に位置するブリスベンにあります。この大学はState University（州立大学）で、勉強の設備は非常に整ったところだと思います。図書館も例外ではありません。

大学内に図書館は、ひとつだけではなく、その学部ごとにあります。たとえば、法学部の図書館、工学部の図書館などと分かれています。その学部の図書館ごとに特徴があって、法学部の図書館などは、法廷教室が中にあたりします。

どの図書館もコンピューターが完備されていて、文献の検索、自分の研究したいことに関する情報を手に入れやすくなっています。オーストラリアでは、インターネットを通して、リサーチするのが普通で、図書館のウェブサイトにはリサーチのためにいろいろなサイトがリンクされています。クィーンズランド大学の学生であれば、IDとパスワードがもらえるので、それを使って、リンク先へ行き、情報を集めることができます。もしリサーチの方法がわからないというのであれば、ぜひ図書館員に聞きましょう。彼らはプロですので、丁寧にリサーチの仕方を教えてくれます。

そして、いい文献を手に入れたら、今度は文献のコピーですね。コピーするにはコピーカードを買わないといけません。このカードは使い捨てではありません。もし、カードの中のお金がなくなったら、なんとお金を入れなおせば、そのカードは何回でも使えるのです。私はそれを知らず、カードの中のお金がなくなった、ということで一度捨ててしまったこともありました。もったいなかった！

図書館には、こうしたコピーカードを売っている自動販売機、フロッピーディスクや文房具を売っている自動販売機、さらには、チョコレートやスナックを売っている自動販売機もあります。さすがオーストラリアですね。スナック、チョコレートみんな好きなんですね。（オーストラリアに留学に行った日

本人の学生は、太る人が多いらしい…オーストラリアは日本と違いこのようにお菓子の環境が整備されているからか？！）

図書館といえば、たくさん本ですね。クィーンズランド大学の図書館も本はたくさんあります。そして、よくよく見てみると…なんと East Asian のセクションまであるのです。ここには日本語の本、韓国語の本、中国語の本などなど東アジアの国々の本があるんですね。時々日本語の本を読みたいという人は、行ってみると楽しいかもしれません。



いい本を見つけたら、その本を借りますよね。本は借りられますが、期限までかえさないと…罰金を取られます。気をつけましょう。期限を過ぎると図書館のほうからEメールが来て返せということをいわれます。それでも、忘れてしまうのが、人間。私も忘れたことがあり、恐る恐る本を返しにいったことがありました。本を見せて、「あの一、一日遅れたんですけど…お金払わないといけませんか？」ギョロっと私のほうを見つめた図書館員。沈黙の瞬間。その後、ニコっと大きな笑顔を見せてくれて、「\$20分までなら、払わなくてもいいのよ。今回は初めてでしょ？だから、No worries!!!（オーストラリア英語で、意味はNo problem）」とってくれました。あのときの笑顔、今でも忘れません。

さて、クィーンズランド大学の図書館といたら、こんなところでしょうか。オーストラリアでも大学の図書館では、リサーチをし、勉強をし、友達と会い、時には昼寝（？）をとるところというのは、根本的に日本の状況と変わりません。そうした、学生にとっては大切なところが、大学の図書館なのだと感じました。

福島大学附属図書館 自己評価報告書

－附属図書館の現状分析と評価－

附属図書館事務長 芳賀 盛行

平成15年12月2日第1082回評議会において全学の合意を得た「福島大学附属図書館自己評価報告書」について報告します。

本報告書は「福島大学附属図書館自己評価実施要領」に基づき、附属図書館の現状分析と法人化に対応する図書館の将来像を検討する立場から点検・評価を行いました。

本報告書は学内教職員及び学生に対して行った利用者アンケートを基礎資料とし、同自己評価専門委員会（図書館事務長、同専門員、同各係長で組織）において現状の分析を行い、その資料を踏まえて自己評価チーム（館長＝主査、図書館協議会委員、事務長）において評価を行い、課題と対策を明確にしました。その後、全学の自己評価委員会にて確認され、さらに評議会にて最終的に承認されたものです。

本報告書は①利用者サービスの状況に関すること、②資料収集、管理状況に関すること、③施設・設備の整備状況に関すること、④図書館システムの整備拡充に関すること、⑤相互協力活動と大学図書館の公開に関すること、⑥管理・運営の状況に関することを柱に現状分析・評価・課題・対策の検討を行い、附属資料として、イ）附属図書館施設改善計画（案）、ロ）福島大学附属図書館主要統計、ハ）学外者利用申請件数（居住地別、職業別）、ニ）福島大学附属図書館整備・充実の歩み、ホ）利用者アンケート集計結果報告を提示しています。

前述の検討課題に対して、仔細にわたって現在の図書館の現状について分析を行い、評価とともに課題と対策が明確になっています。

本評価活動は次の諸点において大学の教育・研究の推進に多大の意義があったと思います。

①大学の教育・研究活動に必要な附属図書館の組織、活動内容ならびにその現状と課題を学内構成員のすべてが理解し共有すること。

②法人化及び理工系の学域を加えた新たな大学像の構築と運営にあたり、附属図書館の果たすべき役割と将来像を明示するものであること。

③学生の学習環境の整備と改善、教官各位の教育への支援、ならびに研究支援の強化とその質的向上に資するものであること。

④図書館職員においても、いかに利用者に目を向けたサービス資質を向上させるか、等課題・対策が明確になったこと。

⑤図書館における財政的課題が明確になったこと。等が考えられます。

今後、本報告書に基づき、あらゆる方策を企画立案・実践していくことが法人化における図書館の中期目標・計画の実践にも繋がることで図書館の重要な使命であると考えており、本報告書を有効に活用していきたいと思います。



購入資料紹介

●●● シュモラー年報

森 良次 (経済学部助教授)

シュモラー年報は、1871年「ドイツ立法・行政・司法年報」Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung und Rechtspflege des deutschen Reichsの誌名で創刊し、爾来ドイツ国民経済学界を代表する学術雑誌として高く評価されてきました。本誌は第二次大戦後も継承されており、「経済学・社会科学雑誌」Zeitschrift für Wirtschafts und Sozialwissenschaftenがその後身にあたります。

シュモラー年報の編集には、その誌名が示すように、ドイツ歴史学派の重鎮シュモラー Gustav von Schmoller が長く携わってきました。ドイツ歴史学派とは、「イギリス経済」に対する「ドイツ経済」の相対的後進性を背景に、イギリス古典派経済学の普遍主義的な経済法則に反対し、ドイツ経済の歴史的発展や「国民経済」的個性の究明を課題とした学派です。ドイツ歴史学派は、歴史的・細目的研究の積み

重ねが経済法則の発見につながるとの立場から、様々な個別研究を行い、大量のモノグラフを生み出しました。また彼らは、中間層の没落や労働者階級の台頭といった「社会問題」の発生に大きな関心を寄せ、これを社会政策を通じて解決すべく、手工業者、大工業労働者、農業等に関する実態調査を行い、各種の政策論を展開しました。

このようなドイツ歴史学派の学問的営みの最も重要な媒体となったのが、本誌なのです。このためシュモラー年報の内容は、社会政策、経済・財政政策と行政、階級構造、中世近代経済史（手工業史、都市史、産業史、銀行史、農業史）など、多岐にわたっています。本誌は、ドイツ歴史学派研究に必須の文献であると同時に、ドイツ社会政策、経済学史、経済史、立法、行政、司法の幅広い分野にわたって貴重な資料を提供してくれます。

カウンターの内側から

●●● 図書館が苦手だった私

浄沼智佳子 (教育学研究科2年)

としょーかん【図書館トショクワン】その名のとおり図書を多く所蔵する施設であり、「静寂以上足音以下の音（例：鉛筆のカリカリ音）のみ許す」という無言の了解をもつ空間。

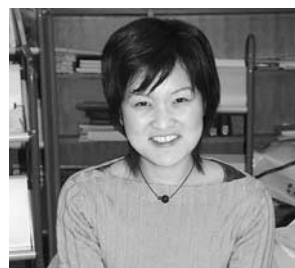
カウンターで受付をさせていただく以前の私の辞書には、こう記載されていました。

ある日、実家の母から電話がありました。「附属図書館でアルバイトしないかって電話がきたのよ！すごい話だからやりなさい！」娘に縁談を持ちかけるかのごとく、弾む声でした。福大には4年も在籍しておりながら、図書館の平均利用頻度月に1～2回。そんな人間を働かせていいの？と自分に不信感を抱きつつも、母に背中を押され、その「すごい話」をお受けしたのです。

それから週に2日、カウンターに座っていると、様々な目的をもち、図書館に足を運ぶ利用者の方に出会います。いろんな要望や質問を受けるたびに、図書館の多様な設備に気付き、利用者側から見た図書館の役割の幅広さや深さに驚かされ、逆に案内を

すべき私のほうがひとつひとつ教わる日々です。

また、開架をよくご利用になる皆さんは、2階にこれまでなかった辞書類が最近置かれるように



なったことにお気づきでしょうか？では、ゲートのピーピー音が少し優しいものになったことは？実にささやかなことかもしれないけれど、皆にとって図書館がより心地よく使いやすいものになるように、知恵を絞って改善しようというカウンターの内側(=職員さん像)を知りました。その職員さんの姿勢や、何より普段の明るさが、以前図書館に感じていた私の緊張感をほぐしてくれたような気がします。

私は今、楽しく図書館で働き、利用しています。以前の私のような図書館に対するイメージを持っている方こそ是非、積極的に図書館を利用してみてください。あなたの辞書も、改訂される日が来るかも知れません。

学内教官著作寄贈図書で紹介



『学びのメカニズム
—学力の二極化をのりこえる—』
ぎょうせい 2003.8
庄司他人男 著
(名誉教授)

第二次大戦後は学力論が二極化し、ほぼ10年ごとに主役の座を交代してきたが、事態は少しも改善されていない。二極とは、「学力」総体の中でも測定しやすい「知識」や「技能」を重視する立場と、それらに「思考・判断」や「関心・意欲・態度」をも加えて四観点を総合的にとらえる立場で

ある。しかし、肝心の四観点の相互関係が曖昧なために議論はかみ合わず、何の進展もみられない。

このような事態を少しでも改善するには、まずは基本的な「学び論」を再構築する必要があると考える。これまでは、経験主義哲学、行動主義心理学、認知科学などの単独の理論に依拠していたが、本書では、さらに現代解釈学、言語社会学、分析哲学、脳科学などにも学びながら、すぐれた授業実践を踏まえてそれら諸科学の示唆を再整理して、「学びのメカニズム」をとらえる視点10項目を提案するとともに、それらを基に「二極化をのりこえる」ための実践上の諸課題について考察した。

(請求番号 375.1/Sh96m)



『綿積み』
近代文芸社 2003.11
鉄 凝 著
池沢 実芳 訳
(経済学部教授)

本書は、河北省の鉄凝の農村物中篇小説集、「積み」三部作である。いずれも「麦、棉、草」という物質に注目されている人間の有り様を、男と女の関係を探究した作品、と著者は言う。

民国から90年代までの河北の大地と歴史から掬いあげた三つの物語。「綿積み」は五・四時期から抗日戦争までを、「麦積み」は文革とその終結直後を、「草積み」は8,90年代を扱う。本書を読めば、中国現代

史を、人々の悲喜交々の暮らしぶりとともに知ることができる。特に自衛隊のイラク派遣が強行されているいま「綿積み」は、日本人の過去の加害を記憶に留めておく為に、相手に向けた銃や刃をわが胸に突きつけ、相手方の被害の傷みを想像する作業としても、一読をお勧めしたい。

オンドルでの夫婦や男女の会話も活写され、農村の寡婦の切なさ、売春宿の実態など、麦や草の匂いの充満する中、読者は登場人物たちの振舞いや生き死にに涙し、怒り、胸つぶれ、心震えながら、やがて河北の豊饒で濃厚な村人たちの真情に触れ、その行末に想いを致すだろう。

(請求番号 923/Te86w)



『協同組合運動のエトス
…北の群像…』
北海道協同組合通信社 2003.6
太田原高昭・中嶋 信 編著
守友 裕一 共著
(経済学部教授)

生協や農協、漁協などさまざまな協同組合が低迷、衰退している。経済的弱者の願いを結集するはずの組織が、長期の構造不況の下で、組織への期待が高まる時期に存在感を発揮できずにいる。私達はこのような協同組合の現状を念頭におきつつも、協同組合運動の出発点は組合員が抱える歴史的、具体的な諸問題であるということから、協同組合運動に携わった先駆

者の足跡をたどりながら、この運動に携わることの意義や楽しさを伝えることを目的として本書を執筆した。

内容は次のとおり。「農協の自律的發展と懇話会・橋場正一と東旭川町農協」、「北上山地の奇跡・佐熊博と住田町農協」、「友づれの思想・佐伯利彦と洞爺村農協」、「虹のロマンに生きて・佐藤日出夫と共立社鶴岡生協」、「医療を民衆の手に・津川武一と津軽保健生協」、「すべての人々は兄弟となる・足羽進三郎」、「複合経営の理論と実践・佐藤正」、「働くものの農協論・美土路達雄」

協同組合運動に生きたこれらの人々の生き方から我々は何を学んでいくべきなのか。それが真剣に問われている時代であるといえよう。

(請求番号 335.6/084k)

その昔 福島大学の近くにあった図書館（その3）

青雲文庫岩代図書館

渡辺 武房

1946（昭和21）年、立花一路、大竹延、八巻亮一を中心に伊達郡梁川町に結成された青雲文庫が、同年4月5日、同町右城町の立花呉服店に開館した簡易貸出図書館のことです。

1950年5月15日、文庫の解散とともに廃館しましたが、同館は青雲文庫の総合的な文化活動の拠点でした。

会員の持ち寄りの図書約3,000冊で開館され、会員

は1947年3月時点では627名に達しました。利用状況は、1946年12月までで、開館225日、利用延会員数1,560名、貸出延冊数19,869冊を数え、1人平均12.7冊で、多くの若者の読書欲を満たしました。

（参考資料）

・梁川町史編纂委員会編集『梁川町史』（10）各論編 文化・旧町村沿革（梁川町1994）p.598～600

大学図書館職員講習会報告

情報管理係 門間 泰子

平成15年11月18日～21日に東京大学附属図書館で開催された講習会を受講してきました。講義内容は①大学図書館の現状と課題②大学改革と大学図書館③生涯学習社会と図書館④海外の大学図書館の事例⑤大学図書館における教育支援サービス⑥電子ジャーナルの導入と契約⑦情報リテラシー教育の実際⑧学術情報の収集・発信の企画と運用⑨国立情報学研究所の概要と役割⑩SPARC/JAPANの目的と概要⑪大学における著作権と幅広く、他に班別討議の時間がありました。

参加機関が抱えている共通の大きな悩みとして、(1)外国学術雑誌（+電子ジャーナル）の価格高騰(2)予算の縮小(3)職員不足があげられます。(1)(2)については世界的な問題になっており、複数館によるコンソーシアム契約で価格を抑制する対策を実施してきました。しかしコンソーシアムには限界があり、欧米ではSPARCという新たな運動が起こりました。SPARCとは商業誌に対抗し、低価格もしくは無料で電子ジャーナルを研究者と図書館主導で発行する活動で、学術情報の流通を研究者自身の手に取り戻すことを目的としています。我国でもSPARCを取り入れ、Nii（国立情報学研究所）がSPARC

／JAPANを開始します。我国の場合は学術情報の海外流出という問題があり、SPARC事業で国内誌を支援し、国際的に評価され、学術情報の発信を促進しようとする独特の目的があります。支援する誌名等の情報については「<http://www.nii.ac.jp/sparc/>」をご覧ください。

(3)については今後も解消される見込みはないと考えられ、業務の外注化が避けられない流れとなっています。実際に業務を外注している機関は、順調な機関と、支障が生じている機関に二分された印象です。外注する業務内容の精査と信頼できる契約先を探す作業の他に、外注した業務の責任の所在を決定しておくことも重要です。

閉講式の東京大学附属図書館長の講話が特に印象に残っています。情報が従来の媒体に加え、インターネットを介して流通している現代は、ともすれば情報の洪水に溺れてしまう時代ですが、図書館は利用者のための知の案内人としての役割を担っているという内容でした。学術情報発信、生涯学習への支援など図書館に期待される役割は大きくなっています。私たち職員がどう対応していくべきか、情報を与えていただいた講習会でした。

図書館からお知らせ

「利用者アンケートに出された意見・要望への回答」をロビーに掲示しました



附属図書館では、平成14年9月～10月にかけて学生及び教官を対象として利用者アンケートを実施しました。アンケートへご協力いただきありがとうございました。アンケートの集計結果は「利用者アンケート集計結果報告」として、全教官に配布するとともに、学生向けにはロビーに備え付けて閲覧に供していますが、より多くの利用者に目を通していただくため、図書館報『書燈』31号を利用者アンケート特集号としてダイジェスト版を掲載しました。『書燈』は自由にお持ちくださり、ゆっくり読んでいただきたいと思います。

利用者アンケートには数多くの意見・要望が出されました。附属図書館ではこれらの意見・要望を、今後の課題として受け止めたいと思います。しかし、意見・要望に出されたものの中にはすでに実施されているもの、利用可能なもの等も多く含んでおりました。これらは図書館からのPRが充分ではなかつ

たと反省し、改めて広報活動を行います。

また、これらの意見・要望を整理した結果、すぐにできるものは要望を取り入れ、順次改善を図っています。特に要望が多かった夜間開館時間の延長や日曜開館については、平成17年度実施を目指して平成16年10月から試行を実施する予定で準備を進めています。

要望の中には多額の予算を必要とするものや制度の改編を伴うものもありましたが、それらは将来に向けた課題として検討を行います。

今回の「利用者アンケートに出された意見・要望への回答」には、希望・要望を検討した中で、現時点で回答可能な事項について、図書館からの回答としてまとめました。ロビーに掲示しましたので、ご覧ください。

また、この回答は図書館ホームページでも閲覧できます。

…『図書選定委員会推薦図書』コーナーの設置について…

本館で購入する学生用図書の選定については、図書選定委員会が行っております。この度、学生に読んでもらいたい図書として特に推奨するものを委員会が選定しました。それらの図書を「推薦図書コーナー」として配架しましたので、ぜひ一度手に取って見てください。

このコーナーの図書は、一般の開架図書と同様に貸出可能です。
(情報サービス係)

